

匿名で生徒が実際に感じている疑問点を見てみる

→自分で変化を見つけてみる、悩みを共有する

正しい名前や知識を学んでいく

→实物に触れてみる、症状や対処方法も教える

心と体について1人1人違うことを知る

→偏見で傷つく人もいれば自分がそうなるかもしれないと考える

→新聞の記事などで実際の人声に触れる

幼・保でやるとすればどのような題材になるか、なにがねらえるか

男の子はなんでズボンを履くのにスカートは履かないのか聞いてみる。

(男の子で髪が長い人がいないのはなんで?)

男の子と女の子を逆転して遊んでみる(ままごとで女の子がお父さん役、男の子がお母さん役など)

1人1人違うお父さん役がいたりすることでいろんな人がいるんだと気づいてもらう。

参考文献

実践での教材（本のまとめ+教材研究を加える・調べたこと+もっと発展した場合）②

赤ちゃんとして生まれてきた自分について、どのように生まれて育ってきたのかについて学ぶ。①学習の提案とみんなのアンケートを読みあう②1年生から今までの体の成長と変化③男の子と女の子のからだのちがい④命がうまれる仕組み⑤これからの体の成長と変化 月経、精通など⑥性の多様性について⑦20歳の自分への手紙

- ・わざとふざけたり、ちゃかしたりすることなく、「みんなが当事者」であると意識をもたせる
- ・どの子にも「どんなあなたでも、あなたはあなたでいい」と伝える
- ・「自分には関係ない」と思ってしまいがちだが、自分も多様性の中に位置付く一人であること、自分は自分らしく生きているのか？を考える

幼・保でやるとすればどのような題材になるか、なにがねらえるか

2018年7月18日放送のあさイチ

「どうする？子どもへの“性教育”」では子どもが性に先入観のないうちから教え始めることを勧める。

プライベートゾーン(水着を着たときに隠れる場所は、自分だけの大切な場所、守るべき場所)を自分で洗う習慣をつけると、自分の体を知って大切に扱う意識づけになっていく。プライベートに関する言葉や話題を、興味本位で外で大声で話したり、人をからかいの対象として口にすることは、人を傷つけたり不快な思いをさせたりすることに繋がると、自分で認識できるようになる。

子どもに直接教えるのが難しい場合は、絵本やマンガを有効活用する。

このように 性のマイノリティーだけでなく、他の弱者(少人数)でも同じである。性と生はつながっている。自分の生き方についても考えるきっかけにする。

参考文献

- ・『希望をつむぐ教育』生活ジャーナル 発行 p 131~139
- ・2018年7月18日放送のあさイチ『どうする？子どもへの“性教育”』